

[ 成果情報名 ] タバココナジラミバイオタイプQに対する有効薬剤

[ 要約 ] 成虫、卵および1齢幼虫のすべてに有効な薬剤は2剤ある。また1齢幼虫および卵のみに有効な薬剤が6剤ある。

[ 担当 ] 総農セ・栽培部・作物病害虫科・山口優子

[ 分類 ] 技術・普及

-----  
[ 課題の要請元 ]

総合農業技術センター農業技術普及部 調査部

[ 背景・ねらい ]

平成18年より本県で発生しているトマト黄化葉巻病は、感染時期が早いと結実しなくなり、甚大な被害をもたらす病害である。その媒介虫であるタバココナジラミのバイオタイプQに効果のある薬剤は少ないとされ、本県に侵入した系統の薬剤感受性も不明である。そこで殺虫効果を調査して、有効薬剤選定の資料とする。

[ 成果の内容・特徴 ]

1. 成虫、卵および1齢幼虫のすべてに殺虫効果の高い薬剤はベストガード水溶剤、サンマイトフロアブルである。
2. アルバリン顆粒水溶剤は1齢幼虫および卵に対して高い殺虫効果を示すものの、成虫に対する殺虫効果がやや低い事例もあり、アルバリンに対し感受性の低いタバココナジラミバイオタイプQが出現しつつある。
3. 1齢幼虫および卵のみに殺虫効果の高い薬剤として、アルバリン以外にコロマイト乳剤、ハチハチ乳剤、クリアザールフロアブル、アプロードエースフロアブル、モスピラン水溶剤がある。

[ 成果の活用上の留意点 ]

1. ネオニコチノイド系薬剤に対する強い交差抵抗性が報告がされているため、連用を避ける。  
成虫に対する有効薬剤は少ないため、卵や幼虫に対する有効薬剤と共に、気門封鎖型殺虫剤（粘着くん液剤、サンクリスタル乳剤、アーリーセーフ、エコピタ液剤、あめんこ100、オレート液剤）や生物農薬なども組み入れたローテーション散布を行う。
2. 定植時の粒剤使用により、トマト黄化葉巻病ウイルスの伝染を抑制できるとの報告があるため、黄化葉巻病防除には持続的な殺虫効果のある粒剤使用がのぞましい。
3. タバココナジラミや黄化葉巻病の防除については化学的防除のみでは不十分であるため、耕種的防除や物理的防除も併せて行う。

[ 期待される効果 ]

1. タバココナジラミが媒介するトマト黄化葉巻病の発生を抑制することが可能となり、トマトの安定生産に貢献できる。

[ 具体的データ ]

表1. 散布薬剤のタバコナジラミに対する殺虫効果(室内試験)

供試薬剤	希釈倍数 <sup>a)</sup>	成虫		1齢幼虫 <sup>b)</sup>		卵	
		中央市 系統	南アルプス 市系統	中央市 系統	南アルプス 市系統	中央市 系統	南アルプス 市系統
ネオニコチノイド系							
アドマイヤー水和剤	2000 倍	×	×	-	-	-	-
ベストガード水溶剤	1000 倍				-		
アルバリン顆粒水溶剤 <sup>c)</sup>	3000 倍				-		
モスピラン水溶剤	2000 倍		×		-		
アクタラ顆粒水溶剤	2000 倍	×		-	-	-	-
ダントツ水溶剤 <sup>d)</sup>	2000 倍	×		-	-	-	-
バリアード顆粒水和剤	2000 倍	×		-	-	-	-
合成ピレスロイド系							
トレボンEW	1000 倍	×		-	-	-	-
マクロライド系							
コロマイト乳剤	1500 倍	×					
ピリジニアゾメチン系							
チェス水和剤	3000 倍	×		-	-	-	-
テトロン酸誘導体							
クリアザールフロアブル	4000 倍	-		-		-	
METI系							
ハチハチ乳剤	1000 倍	×	-				
サンマイトフロアブル	1000 倍						
METI系・昆虫成長制御剤							
アプロードエースフロアブル <sup>e)</sup>	1000 倍	×			-		
昆虫成長制御剤							
アプロード水和剤	1000 倍	-	-	×	-	×	×
マッチ乳剤	2000 倍	-	-	×	-	×	
ノーモルト乳剤	2000 倍	-	-	×	-	×	-
アタブロン乳剤	2000 倍	-	-	×	-	×	×
DBEDC							
サンヨール	500 倍	×		-	-	-	-

中央市系統: 採集場所; トマトほ場、ハイオタイプ<sup>1)</sup>の構成比; ハイオタイプ Q90.0%、ハイオタイプ B10.0%、採集時期; 2007年11月～2008年1月

南アルプス市系統: 採集場所; キュウリほ場、ハイオタイプ<sup>1)</sup>の構成比; 調査中、採集時期; 2008年10月

: 補正死虫率90%以上、 : 70%～90%、 : 50%～70%、 × : 50%より小、 空欄: 調査中、 - ; 未調査

a) : トマトにおける登録濃度、 b) : 定着後、 c) : スタークル顆粒水溶剤と成分同じ、 d) : ベニカ水溶剤と成分同じ、

e) : アプロード水和剤の成分とダニトロンフロアブルの成分による混合剤

[ その他 ]

研究課題名: 作物・野菜・花き病害虫の防除技術の改善

(作物・野菜・花き類の主要病害虫における感受性検定)

予算区分: 県単

研究期間: 2007～2008年度